

お金がわかる

長期

積立

分

散

立



生徒用はこちら



／＼／＼ これからの お金の考え方



人生100年時代といわれる今、生涯にわたって安心してより良い暮らしを送るためには、一人ひとりが金融に関する知識と判断力(金融リテラシー)を身につけることが大切です。かつて、経済成長を続けていた頃の日本は金利が高く、ただ銀行にお金を預けているだけでお金がふえていきました。しかし超低金利時代の今、どこに預けても利息はあまり期待できません。また、公的年金は今の現役世代から集めた掛け金を今の高齢世代に渡す役割があるため、少子高齢化が進んでいる現状では、老後の生活費を年金だけでまかなうことは難しくなるでしょう。また、長い人生の間には、結婚や子供の誕生、住宅購入など、お金がかかるイベントもあります。だからこそ将来に備えて、計画的に資金を準備することが必要なのです。

老後 投資

つみたて
NISA

iDeCo



「長期・積立・分散投資」で将来に備える

お金をふやすには、働いて得た収入を貯蓄する以外に、そのお金を元手にしてお金をふやす「資産形成＝自分のお金にも働いてもらう」という方法があります。その運用方法の一つが「投資」です。**投資は、将来が有望な国や企業の生産活動を応援するために、自分のお金(資本)を投じること。**金融商品を購入する契約なので、どのような仕組みなのかを身につけて慎重に行う必要がありますが、金融の知識は社会の仕組みを知ることにつながる大切な学びです。

資産形成や投資は難しそうと思うかもしれませんが、正しい知識を身につければ、特別に難しいものではありません。**資産形成で大切なのは、「投資先や投資時期などを分散させること」。**金融市場は短期的に大きく変動することがありますが、資産を保有する時間が長いほど安定した運用成果が上がる傾向があるため、長期保有するのが基本です。リスクを抑える「長期・積立・分散投資」で、将来に備えて計画的に資産形成を行いましょう。

カゴに入った卵



カゴを分けると



ひとつに
まとめると全部
割れちゃう



リスクが
分散される！



ニュースで読み解く“お金のいま”

これまで当たり前前に考えていた環境が、近年大きく変わり始めています。新しい金融商品が登場し、自分の幸せと社会貢献の両立が可能となってきているのです。誰でも金融商品と関わりを持つことになる今、世の中でどのようなお金の動きがあるのか、毎日新聞の記事から紹介します。



NEWS

1

環境に優しい事業に投資する グリーンボンドが注目の的

再生可能エネルギーなど、環境問題解決につながる事業の資金を調達するために発行する債券「グリーンボンド(環境債)」の発行額が国内外で年々拡大しています。日本では、従来は主に政府系機関や自治体が発行していましたが、近年は環境での取り組みをアピール



できる狙いもあり、民間企業が相次いで参入。2021年10月には欧州連合(EU)がグリーンボンドを初めて発行し、世界最大規模の約1.5兆円を調達しました。投資を通じて社会貢献できることから、環境問題に関心の高い投資家から注目を集めています。(2018年6月14日)

戸田建設がグリーンボンドで事業を行う浮体式洋上風力発電=長崎県五島市沖で2018年、同社提供

NEWS

2

大学がESG投資で 学生たちを支える

上智大学(東京)を運営する上智学院は、全国の学校法人に先駆けてESG投資を導入しました。ESG投資は、従来の財務情報だけでなく、**環境(Environmental)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)**要素も考慮して行う投資のことです。大学が資産運用を行うのは、収益を教育や研究費、奨学金に充てるため。新型コロナウイルスの感染拡大でアルバイト先を失うなど、学業の継続が困難になっている学生たちを支える意味でも大切な原資となります。一方、大学でも、投資が持続可能な社会を築く有力な手段であることを理解してもらおうと、ESG投資に関する授業を実施しています。(2020年6月22日)



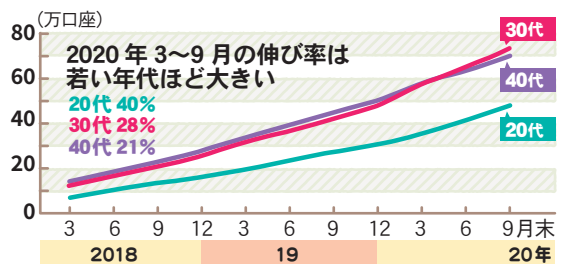
NEWS

3

NISAやiDeCoで資産形成 若い世代が投資を積極化

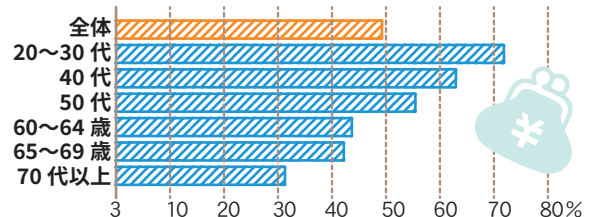
コロナ禍を機に、新たに投資を始めたり投資額を増やす若い世代が増えています。**感染拡大の影響で収入が減ったり、将来の見通しが不透明になった人が増え、家計不安から「資産形成が重要」という意識が広がっているためです。**特に利用者が増えているのは、「長期・積立・分散投資」に向く、積立型少額投資非課税制度「つみたてNISA」。口座数は2020年3月末から9月末までに、20代が40%、30代が28%増えています(図1)。また、20~59歳の現役世代なら誰でも加入できる個人型の「iDeCo」を含む確定拠出年金は、20~30代の72%が制度を「知っている」と回答しています(図2)。(2021年1月11日)

図1 つみたてNISAの口座数



※金融庁「NISA口座の利用状況調査」を基に作成

図2 確定拠出年金の「内容を知っていた」割合



※日本証券業協会「個人投資家の証券投資に関する意識調査」を基に作成

先生のための 金融教育 Q&A

学習指導要領が改訂され、2022年度から高校家庭科の授業で、金融商品の
特徴や資産形成について指導すること
になりました。金融教育の指導にあたり、
家庭科の先生方が持つ戸惑いや疑問に、
お金の専門家が答えます。

教えてくれた方

(株)イー・カンパニー代表
ファイナンシャルプランナー

八木陽子さん



親子で一緒にお金と仕事を考える「キッズ・マネー・ステーション」を主宰。2017年、文部科学省検定の高校家庭科の教科書にファイナンシャルプランナーとして掲載されたほか、セミナーや講座を年間100回以上講演し、メディア出演や書籍監修を行いながら金融教育の普及に努める。

Q1

今なぜ高校生がお金を学ぶ？

高校生がお金について学ぶ理由は大きく3つあります。

① 成人年齢が18歳に

2022年4月から成人年齢が引き下げられ、**18歳から親の同意を得なくても自分の意思でさまざまな契約ができるようになります。**そのため、早くからお金との正しい付き合い方を身に付ける必要があります。

② 自分のいる社会の仕組みを知る

例えば、年金制度は大切な社会の仕組みの1つですが、漠然としか知らない人が多いでしょう。また、投資によって企業が技術革新などを進めることができれば、社会が良くなり、生活も便利になります。**お金を学ぶことは、自分の暮らす社会の仕組みを理解することにつながります。**

③ 投資の基本ルールを知る

自ら資産形成をする時代に向け、**投資の基本を学んでおくことが重要**です。投資はP2で述べたように、ライフイベントにかかる支出や老後の生活のための備えになります。若い人は早く投資を始めることで、時間を武器にできます。仕事の対価として収入を得るだけでなく「**お金にも働いてもらう**」、つまり**投資でお金を育てていくことも意識**しなければなりません。（「お金に働いてもらう」はP6参照。）

投資の三大原則は「長期・積立・分散」

- 長期…基本10年、少なくとも5年以上投資を続ける
- 積立…毎月1万円など、定期的に同じ金額をコツコツ投資に充てる
- 分散…1つの資産だけでなく、特徴の異なる複数の資産に分散して投資する

資産形成には損をする可能性(リスク)がつきもので、**「絶対もうかる」投資は存在しません。**「長期・積立・分散投資」は、市場の短期的な価格変動や「損をしたくない」といった感情に左右されず続けることができ、リスクを抑えながら、資産を増やすことが期待できます。

Q2

これまで家庭科で扱ってきた消費者教育とこれから始まる金融教育が、どうつながるのかわからず困っています。



消費者教育は、消費者として生活する力、身を守る術としての位置付けが強いと思います。それに加え金融教育は、自分の人生設計をする視点が入ってきます。**消費者教育で日常における生活能力を育み、金融教育で未来をイメージし、人生の選択肢を増やす**という定義で考えると指導しやすいのではないのでしょうか。

Q3

金融に関する内容を、生徒が身近に感じ、自分のこととして捉えられるようにするには？



例えばSDGsについては子供たちにも理解が広がってきていますので、個人の経済活動が社会にも影響を与えていることは関連付けやすいと思います。普段食べたり使ったりしている物は、どの国や地域でどのように作られているか、販売している会社は得られたお金をどのように使っているのか。**一連のお金の動きをイメージできると、普段の個人の買い物や投資についての関係性が見えてきます。**

Q4

生活に余裕がない家庭の生徒が多い現状で、金融を教えることに抵抗を感じています。対応策はありますか？



資本主義によって生じる格差や貧困が問題になっている今、お金の仕組みを身に付けることは、**負の連鎖を断ち切り、人生を諦めずに乗り越える方法の一つ**として捉えてほしいと考えています。金融は、決して富裕層だけに必要な知識ではありません。お金に振り回されず、人生を俯瞰する力、自分に必要な社会保障制度を把握する力などを手に入れられるはずで。

Q5

18~20歳は、成年となっても社会的には未熟な時期です。特に気をつけるべき権利と責任について教えてください。



未成年の場合、何かの契約をするには親の同意が必要です。同意を得ずに契約した場合は「未成年者取消権」によって取り消すことができます。成年年齢に達すると自分の意思で契約ができるため、**未成年の時のように消費者被害防止の観点から保護されていた権利はなくなりますが、一方で、若者の自己決定権を尊重することで積極的な社会参加が進む**と期待されています。例えばローンを組んでバイクを購入する、一人暮らしをするなど、今まで親の同意が必要だったが、自分1人の意思で可能になります。責任重大ではありますが、多くのことが自分次第で決められるのです。

Q6

投資信託を生徒にわかりやすく説明するには？



投資信託にもさまざまな種類がありますが、その一つに**株式に投資する株式投資信託があります**。そのため、まずは株式の仕組みから説明すると理解しやすいでしょう。株式の仕組みがわかる教材やゲームも多数あります。その上で、自分だったらどんな会社を応援したいか、成長が見込めて日本の未来を託したいのはどんな分野かという視点で会社選びをすると良いでしょう。**投資信託とは、そういった複数の会社に少額で投資できる仕組み**です。株式投資は、応援したい「その会社」にお金を預ける仕組み、投資信託は応援したい「多くの会社」にお金を預ける仕組みです。

FPが解説



お金にも働いてもらおう!

低金利時代の今、お金をただ銀行に預けていてもふえることはありません。そこで大切なのが「お金に働いてもらう」こと。これはお金を預貯金に眠らせたままにしておくのではなく、お金を元手にして投資でお金を育てていくことを言います。お金を稼ぐ方法は、労働による収入だけではありません。人生のさまざまな場面で必要になる費用を、資産形成しながら準備していきましょう。

投資と投機、どう違う？

「投資」は、投資先の将来性を見据えて長期的な視点で資金を投じることを指します。一方、「投機」は、相場の変動を利用して短期間で売買して利益を得ようとする取引のことです。将来の生活のための安定した資産形成には、比較的风险が低く、コツコツ堅実にお金をふやしていける「投資」が向いています。

お金を貯める・ふやす方法とは？

資産運用にはどのような方法があるのか、見ていきましょう。

預貯金



銀行や信用金庫などの金融機関が、お金を預けた人に対して、**一定の利息と将来の元本の支払いを保証している金融商品**です。普通預金であれば、必要に応じていつでも引き出して使えます。

債券



国や地方自治体、会社などが、**事業に必要な資金を多くの人から借りるために発行する有価証券**。国の場合は国債や公債、会社の場合は社債と呼ばれます。満期まで待てば全額戻ってくるほか、決められた利息が支払われます。

株式



株式会社を設立したり、会社の活動資金を集めるために発行される証券のこと。証券会社を通じて購入できます。資金を提供した人は、その会社が利益を上げた時に配当などを受けることができます。

投資信託



投資家から集めたお金を一つの大きな資金としてまとめ、**運用の専門家が国内外の株式や債券などに投資する商品**です。その運用成果は、購入額に応じて投資家に分配されます。

リスクとリターンの関係とは

債券、株式、投資信託などの金融商品には、「リスク」と「リターン」があります。金融商品を選ぶ際は、リスクとリターンの関係があることを常に意識することが大切です。

リターンとは

投資を行うことで得られる収益のこと。

リスクとは

一般的には「危険」という意味で使われますが、資産運用の世界では「リターンの変動(振れ幅)の大きさ」を意味します。



リスクが低い商品はリターンも低くなり、高いリターンを得ようとするれば、高いリスクを伴います。リスクとリターンは、一般的にこのような関係があります。

少額でも始めやすい投資信託とは

投資信託は、資産形成の初心者でも始めやすいとされています。どんな特徴があるのでしょうか。



特徴

1

少ない金額から購入できる

通常、株式や債券の投資にはある程度まとまったお金が必要ですが、投資信託は1万円程度から始めることができます(積立投資なら1,000円や100円などの少額で購入できる場合もあります)。

特徴

2

株式や債券などに分散投資できる

投資の基本は、資産をいくつかの商品に分けてリスクを分散させる「分散投資」。投資信託は、さまざまな資産に分散投資し、リスクを軽減する考え方から生まれた金融商品です。

特徴

3

専門家が運用する

株式や債券などの投資には、幅広い知識や情報が必要なため、個人ではなかなか難しいと言えます。投資信託は、投資の専門家が投資家に代わって運用します。



動画で学ぼう!



高校生のための「人生と投資」のお話

投資は、自分と社会の未来を創っていくために不可欠なものです。投資信託協会は、これから資産形成や投資信託のことを学ぶ高校生や教師のみなさまに、資産形成のことをより身近に感じてもらうための動画シリーズを製作しました。この動画は下記5人の方々から高校生に向けたメッセージとなっています。「なぜ、高校生が投資について学ぶことになったのか」について、理解を深めていただければと思います。

メッセージ動画

「16歳の自分に教えたい
お金との正しい付き合い方」



セゾン投信
代表取締役会長CEO
中野晴啓先生

自分のお金が世の中を豊かにして、やがて自分にお金が返ってくる。だから堂々とリターンをもらえ、それが社会貢献になる!



レオス・キャピタルワークス
代表取締役会長兼社長・
最高投資責任者(CIO)
藤野英人先生

投資はその会社を応援すること。それを知れば投資をしようという人が増え、世の中全体も良くなっていく。そんな社会を目指そう。



シンクタンク・ソフィアバンク
代表
藤沢久美先生

お金は道具であり、どう使うかが大切です。自分の未来とみんなの幸せのために、時間とお金をどう使うかを考えれば、社会の仕組みも理解できるようになります。



農林中金バリューインベストメンツ
常務取締役兼
最高投資責任者(CIO)
奥野一成先生

投資で重要なのは付加価値が高く、強い競争力を持つ構造的に強靱な企業に投資すること。みなさんも自分へ投資して強靱な人になろう。



佐藤総合法律事務所代表
佐藤明夫先生

お金は世代や立場によって意味することが違い、大人になるにつれてその重さがわかってきます。幸せな生活を長く続けるために、投資を考える時代がきています。

今後新たな動画を随時掲載していきます

学習画像ライブラリーはこちら! →

<https://www.toushin.or.jp/start/4/>



一般社団法人
投資信託協会
The Investment Trusts Association, Japan

<https://www.toushin.or.jp>